

衆議院財務金融委員会ニュース

H27.6.10 第189回国会第12号

6月10日(水)、第12回の委員会が開かれました。

1 金融に関する件(通貨及び金融の調節に関する報告書)

- ・通貨及び金融の調節に関する報告書について、黒田日本銀行総裁から説明を聴取しました。
- ・麻生財務大臣兼金融担当大臣及び政府参考人並びに参考人に対し質疑を行いました。

(参考人) 日本銀行総裁 黒田東彦君
日本銀行理事 雨宮正佳君
日本銀行理事 武田知久君

(質疑者及び主な質疑内容)

鷲尾 英一郎君(民主)

- ・本年1～3月期の実質国内総生産(GDP)2次速報値が、潜在成長率を大幅に上回るなど経済情勢が好調にも関わらず、異次元の金融緩和を継続する理由は何か。また、異次元の金融緩和の継続による副作用(バブル等)の懸念について、日銀総裁の考えを伺いたい。
- ・今般の急速な円安進行に対して、異次元の金融緩和がどの程度影響を及ぼしたと考えるか。また、今後どのような影響が出てくると考えているか。
- ・本年6月、ドイツ、アメリカ等の長期金利が上昇すると同時に、我が国の長期金利も上昇したが、その要因は何だと考えるか。また、長期金利が急騰した場合には対策を講じる必要があると考えるがいかか。
- ・バーゼル銀行監督委員会で協議中の国債等の金利変動リスクに係る規制強化がなされ、邦銀が自己資本積み増しを求められることとなった場合、長期金利が上昇し、日銀が金利低下を促す金融政策を行う可能性があるのではないか。

井上 貴博君(自民)

- ・昨今の民間企業におけるベースアップ等による賃金上昇の流れを踏まえると、アベノミクスにおいてデフレ脱却を第一としたことは正しかったと感じるが、日銀総裁の見解を伺いたい。
- ・バブル崩壊後の日銀の低金利政策により、多数の中小企業の経営が持ち直すなど大きな効果を発揮したと感じるが、バブル崩壊後の25年間を振り返ってどのように考えるか、日銀総裁の見解を伺いたい。
- ・異次元の金融緩和により景気は回復基調にある一方、その効果は地方に対して完全には及んでおらず、金融緩和のペースを緩めることには慎重であるべきだと考えるが、今後の金融政策について日銀総裁の見解を伺

いたい。

根本 幸典君(自民)

- ・デフレを脱却するため2013年4月に量的・質的金融緩和の政策を導入したが、2年経った現在、効果をどのように認識しているか伺いたい。
- ・2%の物価安定目標の現状認識及び実現に向けた今後の道筋について伺いたい。
- ・現政権の経済金融政策は、中小企業と地方都市にどのような効果をもたらしているか。また、賃金・雇用に改善傾向がみられる一方、実質賃金が追い付いていないとの指摘もあることから、実質賃金の現状と今後の見込みについての認識を伺いたい。

岡本 三成君(公明)

- ・日銀の使命は「物価の安定」と「金融システムの安定」と認識しているが、「物価の安定」を使命とする目的について伺いたい。
- ・「物価の安定」を使命とする目的が国民経済の健全な発展であり、その手段が2%の物価安定目標ということならば、国民の生活水準の向上という点である程度達成されていることから、手段たる物価安定目標の設定は柔軟たるべきと考えるが、日銀総裁の見解はいかか。
- ・個人より世帯収入の増加を目標にして、将来の収入増加に対する期待に働きかければ、消費が好転し、経済に好循環が生まれる可能性が高いと考えるが、日銀総裁の見解を伺いたい。

丸山 穂高君(維新)

- ・昨今の円安が急激な変動に当たるのかどうか、最近の閣僚の発言を踏まえ、日銀総裁の認識を伺いたい。

- ・本年5月のG7財務大臣・中央銀行総裁会議における、世界的なドル高や原油価格についての議論の状況について、日銀総裁に伺いたい。
- ・6月2日の安倍内閣総理大臣との会談で、世界経済情勢について具体的にどのような議論が行われたのか、日銀総裁に伺いたい。
- ・先般、1～3月期国内総生産（GDP）速報値の上方修正が行われたが、一方で円安の影響による輸入価格上昇が起きていることなどを踏まえ、昨今の景気の現状等について日銀総裁の見解を伺いたい。

前原 誠司君（民主）

- ・大臣は、G7財務相・中央銀行総裁会議における5月28日の記者会見で、足元の急速な円安・ドル高に対し、「荒い動きがある。今後も市場の動きを注意深く監視していきたい」旨発言しているが、これはボラティリティが大きいことは良くないという趣旨で発言したもののなのか、真意を伺いたい。
- ・現在の実質実効為替レートの水準が、1985年のプラザ合意前と同程度の水準となっていることについて日銀総裁の認識はどうか。
- ・本年4月の展望レポートでは物価安定目標の達成時期として「2016年度前半頃」と示されたが、本当に実現可能なのか、日銀総裁としてしっかりコミットメントして欲しい。
- ・現在、いわゆる「銀行券ルール」は一時停止されているが、日銀総裁は2013年4、5月の国会答弁で、物価安定目標が達成され、金融経済が正常化した際などにおいてはまた同ルールが「復活する」旨答弁していたところ、本年5月の答弁では、同ルールの復活について「検討する」と答弁している。これは、方針を変更したと認めるべきではないか。

宮本 岳志君（共産）

- ・食料品などの価格上昇の理由が円安によるコスト増という認識について日銀総裁の見解を伺いたい。

- ・大量の国債を保有している銀行や保険会社などの金融機関がその保有を減らしているが、金利上昇リスクを避けるため、さらに保有を減らすことが想定されることについて日銀の見解を伺いたい。
- ・財政ファイナンスとされる国債の引受けと日銀が行っている国債の買入れとの違いについて伺いたい。

吉田 豊史君（維新）

- ・デフレの問題点とは何か。また、長期間のデフレ状況下において、日銀はどのような対応を行ってきたのか。
- ・デフレ下においても、デフレを脱しつつある現在の経済情勢下においても、なぜ企業は内部留保を持つのか、日銀総裁の認識を伺いたい。
- ・物価安定目標がなぜ「2%」なのか伺いたい。また、量的・質的金融緩和の効果とこれまでの評価について、日銀総裁に伺いたい。

伊東 信久君（維新）

- ・バーゼル銀行監督委員会が今月8日に発表した市中協議文書（銀行勘定の金利リスク）における金利上昇リスクに応じて資本を積み増す共通ルール導入案が採用された場合、異次元の金融緩和の出口戦略にどのような影響を与えるか、日銀総裁及び大臣の見解を伺いたい。
- ・財政健全化計画策定に向けた経済財政諮問会議の議論において、有識者議員から提言された後発医薬品の利用率目標の引上げ（80～90%程度）に対する大臣の見解を伺いたい。また、バイオシミラー単独の利用率目標も設定すべきであると考えているがどうか。
- ・厚生労働省「保健医療2035」策定懇談会が今月9日に公表した提言書における、たばこ、アルコール、砂糖などの健康リスクに対する課税強化策について、安易な増税を行うべきではないと考えるが、大臣の見解を伺いたい。